

令和5年度 昆虫採集クラブ活動記録

第2回例会の内容

2023年7月8日(土) 曇り 24℃

今回の例会では、はじめにスライドで前回捕まえた虫のおさらいと、「カミキリムシの話」をテーマに体の特徴や環境との関わりなどについて解説しました。



カミキリムシの仲間がくらしていける環境

幼虫は主に木の内部を食べる 成虫は花粉・葉や茎・木の皮を食べる

木だけではなく多くの植物が必要

分解の役割 他の生き物の食料 受粉に貢献

多くの生き物がくらしていける環境

特定の植物しかない環境では害虫となってしまう

豊かな自然が必要で、そこには多くの生き物がくらしていける

スライドの後は園内で採集を行いました。採集コースは園路を順路どおりに進み、ニホンツキノワグマ前からニホンイヌワシなどの鳥類のコーナーを下り、キリン下から牧草地、WANPAKU FIELDを回りました。

園路沿いでは成虫になって間もないオオムラサキのオスや初夏の代名詞とも言えるニイニイゼミ、この時期恒例のアジサイにやってくるヨツスジハナカミキリなどがいました。園路をモソモソ歩くクスサンの幼虫もよく目につきました。前回の例会から2週間経ちましたが随分と見られる昆虫の種類が増えたように思えます。



オオムラサキ



ニイニイゼミ



ヨツスジハナカミキリ



クスの幼虫

(^す素手^でつか^んでい^ますが^ど毒^はあ^りま^せん)

園内^{かくしよ}各所にあるリニューアル工事で間伐^{かんぱつ}した丸太置き場^{まるたお}やキリン^ば下の伐採木^{ばっさいぼく}を積^つんでいるところでは、クロトラカミキリやキスジトラカミキリ、ルリボシカミキリなどのカミキリムシが捕^とれていた。



クロトラカミキリ



キスジトラカミキリ



ルリボシカミキリ

WANPAKU FIELD では桑^{くわ}の木で見られるキボシカミキリや前回^{ぜんかい}幼虫^なだったキリギリスの仲間の^{なかま}ヒメギスも成虫^{せいちゅう}になっていました。ヒメギスは背中部分^{せなかぶぶん}が灰褐色^{はいかつしよく}のものがほとんどですが、今回捕れたような緑色^{みどりいろ}のものいます。また、翅^{はね}が短^{みじか}いもの(短翅型^{たんしがた})や長^{なが}いもの(長翅型^{ちようしがた})など色々^{いろいろ}なタイプがあります。



キボシカミキリ



ヒメギス

前回 WANPAKU FIELD の草地の端の地面がむき出しになっている場所にいたバッタの幼虫は
クルマバッタモドキだと思っていましたが、一部が成虫になっており、調べてみるとトノサマバッ
タでした（胸の形や後翅の黒い帯状の模様のありなしで見分けることができます）以前この場所
ではクルマバッタモドキが捕れていたこともありすっかり思い込んでいました。



トノサマバッタ幼虫



トノサマバッタ後翅



トノサマバッタ

その他の昆虫たち



アオカミキリモドキ



アオハムシモドキ



アカガネサルハムシ



アカスジキンカメムシ



オオオバボタル



オオカマキリ幼虫



オオツノトンボ



オツネントンボ



ガの仲間



カワトンボ



キイロスズメバチ



キマダラセセリ



ケヤキナガタマムシ



コアシナガバチ



コガネムシの一種



コンボウアメバチ



シオカラトンボ♀羽化直後



セアカツノカメムシ



セスジスカシバ



セマダラコガネ



センノカミキリ



ツチカメムシ



ツノアオカメムシ



ツバメシジミ



トゲバカミキリ



トンボエダシャク



ナミテントウ



ノシメトンボ



ハサミムシ



ハネナガフキバッタ



ヒグラシ



ヒシバッタ



ナミテントウ



ヒメキマダラセセリ



ヒロバネヒナバッタ



ベニシジミ



ベニボタル



ホシミスジ



マメコガネ



ヤツメカミキリ



ヤマイモハムシ



ヤマトシリアゲ



リンゴコフキハムシ



ルリタテハ